

2022年度事業報告書

社会福祉法人温知福社会

特別養護老人ホーム 枝雪零苑
枝雪零苑デイサービスセンター
会津若松市若松第5地域包括支援センター

2022年度枝雪零苑事業報告

<枝雪零苑関係>

2022年度は、8月（利用者4名、職員2名）および12月～1月（利用者66名、職員21名）に新型コロナウイルス感染症が発生している。特に12月～1月に発生した大規模クラスターは終息までに約一ヶ月半も要する結果となり、利用者および関係者または施設運営に多大なる影響を与えてしまった。

今後は苑内の感染対策を見直し、職員一人一人が感染予防を今まで以上に留意し施設に持ち込まないように対応を実施していく。

実績については、在籍率93.7%、稼働率については89.7%と90%を下回る結果となり、空床期間についても感染症発生期間は入所を控えていた事で50.8日と目標値（20日）を達成できずにいる。

ショートステイでは29名の新規利用者を獲得したが、苑内における新型コロナウイルス感染症の発生により受入を中止した期間があり、2021年度の72.1%に対し、2022年度は67.1%と稼働率は低下している。

収益については、稼働率低下に伴い前年比97.3%と約10,000千円の減収となり、費用については、電気料金の値上げおよび新型コロナウイルス感染症関連の消耗品購入等により約18,000千円増加している。

(枝雪零苑の利用状況)

2022年度平均

	定員	平均入所者数	在籍率	平均介護度
長期利用者	90名	80.7名	93.7%	3.78
ショート	10名	6.7名	67.1%	2.95
合計	100名	87.4名	87.4%	3.37

○3月31日現在

性別入所者数 男性 21名 女性 57名
 入所者平均年齢 85歳11ヶ月（男性 80歳0ヶ月 女性 88歳2ヶ月）
 平均利用期間 3年1ヶ月
 年間入退所者 入所 26名 退所 38名
 平均要介護度 3.72
 入所待機者 213名（内訳：男性 86名 女性 127名）

介護保険者別入所者状況

会津若松市 68名 喜多方市 1名 会津美里町 2名
 会津坂下町 2名 三島町 1名 磐梯町 3名
 江戸川区 1名

合計 78名

1. 実践目標

(1) 安全対策

- ① 消防署並びに地元関係機関との連携を密にする事を目標に、総合防災訓練実施にあたり、事前に消防署、地元関係機関等へ連絡し指示を仰ぐことで、連携を取ることができた。
- ② 防災訓練では、火災や地震土砂崩れを想定した避難訓練、年1回の夜間避難訓練、総合防災訓練等を消防計画に基づいて実施し、各訓練場面での評価を各職員へ周知することにより、職員の役割や意識の向上に努めることができた。
また、施設の設備に不具合がでないよう維持管理ができた。

(2) 職場研修の強化

- ① 各職種における専門性また組織力を高めることを目的とし、各職種主催の教育訓練を実施した。教育訓練について部門毎の計画通り実施できた。
- ② 感染予防を考慮しオンラインでの研修へ多くの職員を参加させ、個々の能力向上に努めることができた。
また、各部門での勉強会で研修内容を報告し、知識の共有を図った。
- ③ 各職種に必要な資格取得を積極的に推進し、2名の職員が介護支援専門員実務研修受講試験を受験し1名の合格者を出すことができた。
- ④ 感染予防や危機管理に対する意識向上のための研修会を実施した。職員会議等でも新型コロナウイルスへの対応について知識の共有を図った。

(3) 地域福祉

- ① 関連法人介護福祉科及び看護科からの実習受け入れを行い、担当教務との連携を密にし福祉人材の育成に努めることができた。
- ② ショートステイ事業については、各居宅支援事業所との連絡を密にとり、利用者およびご家族の希望に沿ったサービスを提供することができた。

(4) 地域との交流

- ① ふれあい祭りについては、感染症蔓延予防の観点から外部受け入れを中止し、規模を縮小し実施した。
- ② クリスマス会等の行事へ園児を招き、利用者との交流を図った。

(5) 施設の環境整備

- ① 災害時に備え設備の補修や点検を実施した。特に冬期間は苑外の避難経路の除雪を実施した。
- ② 環境美化委員会が中心となり、苑内外のゴミ拾いや除草を実施した。
- ③ 入所者に適した居室環境と、安全を配慮した居住環境の整備に努めた。特に冬期間は定期的に換気を行うことで、加湿と感染症予防対策を実施した。
- ④ 開所より20年以上が経過し空調の不調が目立つようになってきた。使用燃料も

含め空調設備の更新を検討している。

(6) 管理

- ① 組織力の強化と開発を図るため、各種会議および委員会が年間活動計画書を作成し委員会を中心に活動をした。委員会以外の職員も協力することにより、施設全体の資質の向上に努めた。
- ② 品質マネジメントシステムに沿って、個人及び各部門別の目標を管理し介護サービスの質の向上に努めた。
- ③ 職員の健康管理の充実を図るため、定期健康診断、インフルエンザ予防接種、人間ドック、ストレスチェック、子宮がん検診、乳がん検診等を推進した。また、腰痛予防の働きかけを行い健康増進に努めた。

2. 部門別管理目標

＜特別養護老人ホーム 枝雪零苑＞

(介護)

- ① 介護行為中のA該当事故0件を掲げていたが、介護行為中に発生した窒息事故1件と骨折事故1件が発生する。嚥下機能も低下してきており食事形態をミキサー食へ変更し、ご本人のペースに合わせながら食事介助を行うも気道がうまく塞がれなかった為か窒息に至ってしまった。嚥下機能の低下時には嘱託医や歯科往診時に状態を相談しながら対応をして再発防止に努めていく。もう1件は、膝の可動域が狭く伸びた状態の利用者の方であった為に移乗介助等の際に無理な力が加わり骨折に繋がってしまったと考えられる。移乗介助方法の見直しや膝の伸縮状態を把握しながら介助を行い再発防止に努めている。
その他、ご自分で動かれて転倒されてしまい骨折に至ってしまった事故が2件発生する。起きてしまった事故内容を教訓に他の利用者の方にもあてはめて同様の事故がおきないように努めていきたい。
- ② 開催時期は、ずれてしまったが年間6回の勉強会を開催し、接遇・認知症ケア・口腔ケアの必要性・不適切なケア防止・ひやりはっと・アンガーマネジメントについて知識を学び介護職員としての質の向上に努めた。学んだ事を活かしながら日々の業務に役立てていきたい。

(看護)

- ① 2022年度は褥瘡発生を月平均2.0件以下とすることを目標に取り組んだが月平均6.1件と目標達成ができなかった。
特に新型コロナウイルスクラスター発生以降の褥瘡が急増しており、感染対策の為に入浴を中止したり、食事摂取量低下による低栄養が原因と考える。入浴が実施出来ない際の保清の方法や、感染症発生時の食事介助について、他職種と連携し、褥瘡を発生させない体制作りをしていきたい。
- ② 2022年度は、インフルエンザやノロウイルスの発生は見られなかったが、8月および12月～1月に新型コロナウイルスのクラスターが発生した。いずれも

職員による持ち込みが原因であった。職員一人一人が感染症にならないこと、施設内に持ち込まないことが重要であり意識付けをしていきたい。また、いざ施設内で新型コロナウイルスの陽性者が発生した際に、マニュアルがなく効率的な動きが出来ない場面も多く見られた。感染対策委員会と連携し、マニュアル整備や職員の感染対策に関する意識付けを行っていきたい。

(施設介護支援専門員)

- ① 満足度の年間平均4.5ポイントと年間平均目標の4.5ポイントを達成することが出来たが、月毎にポイント換算を行うと目標値を大きく達成出来た月と達成出来なかった月の差が大きく見られた。目標値を達成出来なかった月は、家族への状態報告が出来ていなかった為、家族の思っている状態と現状が一致できなかったためと考えられる。目標値達成の為に、利用者の状況を家族へ報告し、新たな意向を引き出して、プランを作成し、ケアプランの評価が向上するように努めていきたい。

(生活相談員)

- ① 2022年度は特養在籍率98.0%を目標としていたが、上半期終了時96.2%と目標達成できていなかったため、下方修正をかけ97.0%を目標としたが年間平均93.7%と目標を達成することができなかった。稼働率に関しては94.0%を目標としていたが、上半期終了時91.4%と目標達成できていなかったため、下方修正をかけ93.0%を目標としたが年間平均89.7%と目標を達成することができなかった。
空床期間に関しては20日以内を目標としていたが、上半期終了時39.9日と目標達成できていなかったため、下方修正をかけ25日以内を目標としたが50.8日と目標を達成することができなかった。入所検討委員会通過者が少なくなっていたが、待機者の実態調査や入所検討委員会の開催がうまく進められなかったことが一番の要因である。また、12～1月の新型コロナウイルスクラスターにより退所者が多く出てしまい、入所が追いつかず上記の結果となってしまった。今後は定期的に待機者の実態調査の実施、入所検討委員会の開催を行い円滑に入所が勧められるようにしていきたい。
- ② ショートステイに関しては稼働率72.0%を目標としていたが、年間平均67.1%と目標を達成することができなかった。8月と12～1月に苑内で新型コロナウイルス感染者が出たことにより、受入れ中止したことが要因である。2022年度は29名の新規利用者を獲得したが、永眠や利用中止等により、現在12名が継続利用されている。新規利用者の獲得及び、継続利用して頂けるよう各事業所、ご家族等へ働きかけを行っていきたい。

(機能訓練指導員)

- ① 2022年度は機能訓練実施率90%以上を目標とし、実施率の平均は上半期8

9.1%、下半期94.7%、年間92.2%であった。上半期は90%を下回る月もあったが、下半期はほぼ90%を上回る実施率となり、目標値の達成に至った。新型コロナウイルスの感染拡大により長期間の隔離対応となり、利用者の身体機能や生活動作の変化が見受けられ、適宜介入方法を見直しながら対応してきた。引き続き入所者の評価を継続的に行い、身体機能改善または維持、精神面の安定に努め、実施率の安定に努めていきたい。

- ② 2022年度は入所者の機能訓練計画書作成率、機能訓練加算算定率100%を目標とし、機能訓練計画書作成率・個別機能訓練加算（I）算定率は共に100%であった。LIFEへのデータ提出も滞りなく実施出来ており、個別機能訓練IIの算定が出来ている。計画書の同意は郵送での対応を継続しており定期的に連絡を入れながら同意を得られるよう努めていきたい。また面会制限が緩和されたため、面会時には計画書の説明実施に努めていきたい。

（管理栄養士）

- ① 2022年度の低栄養状態リスク評価における高リスク者の割合を5.3%以下に抑える事を目標にしていたが、コロナ感染者が確認された8月から食事量の低下が見られ9月以降の高リスク者は9%を超えた。少しずつ改善していたが、12月に再度コロナ感染が確認され、感染者が多かった事と隔離期間が長期間だったため1月から3月の高リスク者は10%を超え、2022年度の低栄養状態リスク評価における高リスク者の割合は8.9%と目標内に抑える事ができなかった。各職種と協力し感染対策をしながら活動量を戻し、食事摂取状態が改善できるように努めていく。
- ② 2022年度の平均喫食率は93.3%と2021年度から比べ1.4%下がった。コロナ感染による摂取不良のほか活動量低下による食欲低下や認知症進行が見られ、12月から1月にかけて喫食率が大きく下がった。全体的な献立を見直すだけでなく、感染時を含め個々への対応を早期に取り組み、喫食状況の向上に努めていく。

（事務）

- ① 月1回の事務会議を行い、業務の進行状況の確認や理解の促進に努めることが出来た。
教育訓練についても年間計画を作成し、計画通りに実施出来た。今後も継続して実施したい。
- ② 定期的な購入物品の見直しや取引業者の変更を実施し、経費削減に努めることが出来た。今後も継続して実施したい。

2022年度枝雪零苑デイサービスセンター事業報告

<枝雪零苑デイサービスセンター関係>

2020年4月より認知症対応型通所介護を継続休止し一般型（20名定員）のみで運営を行う。

2022年度の平均稼働率目標値は88.0%であったが、56.1%と目標の達成に至らなかった。

稼働率減少の要因として、新規獲得者数13名に対し施設入所及び永眠等による登録解除者が19名と上回り、お試し利用からの新規獲得や新規獲得後の継続に繋がれなかった事があげられる。新規獲得に向けて各事業所等に積極的広報活動の働きかけを行っていく。

2023年度は基本的な新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながら、以前のように外出やレクリエーションを戻しつつ、職員一丸となり魅力あるサービス内容の充実を検討し選ばれるデイサービス作りを目指し、稼働率上昇に努める。

○2022年度枝雪零苑デイサービスセンターの実績

年間開所日	265日(前年	262日)
年間延べ利用者数	一般型： 2,991名(前年	3,477名)
	認知型： 休止中	
一日平均利用者数	一般型： 11.2名(前年	13.2名)
	認知型： 休止中	
ボランティア受け入れ人数	0名	
施設訪問(慰問)人数	0名	
介護者教室参加者数	0名	
※ 新型コロナウイルス感染症予防のため、外部団体等の受入中止。		
職員数	6名	